

資源エネルギー庁長官
村瀬 佳史 様

中東情勢に関する緊急要望

令和8年5月21日

岐阜県知事 江崎 禎英

今般の中東情勢の緊迫化により、我が国においては燃料油価格の高騰や安定供給への不安や懸念はおろか、実際に石油由来製品等の流通の目詰まりが生じるなど、先行きが見通せない状況が継続しています。こうした中、国においては、総理のリーダーシップのもと、原油の代替調達に向けた働きかけや、流通の目詰まり解消に向けた取組を進めておられ、心より敬意を表します。

本県においても、中小・農業事業者向けの相談窓口をいち早く設置するとともに、状況把握のためのヒアリングなどを行ってまいりました。県内企業からは、「重油、ナフサ関連製品の価格高騰により、取引先に値上げを要請しているが、抵抗が大きく難航している」、「大手企業による買い占めにより、資材が入荷せず生産に支障が出ており、最悪の場合倒産の懸念がある」といった声も届いています。

岐阜県は、繊維、陶磁器、家具・木工、刃物、紙、プラスチック、食品など様々な地場産業を特色とし、中小事業者が99.9%を占めています。こうした中小とりわけ零細企業においては、十分な資材等の在庫を持つことは容易ではなく、必要な資材等の調達が見通せないため、工場の稼働を停止せざるを得ない事態が差し迫っております。

特に、アセトンやシンナー類など、塗装に必要な溶剤の供給途絶は、最終製品の生産に致命的な影響を与え、多くの木工や陶磁器、刃物産業が苦境に陥ることが懸念されます。このように、燃料油価格の高騰や石油関連資材の流通の目詰まりは、既に県内経済に大きな影響を及ぼしつつあり、今後の電力・燃料需要の動向いかんによっては県民生活も含め、地域経済全体の停滞を招くおそれがあります。

以上を踏まえ、県としては、引き続き、国と緊密に連携し、この国難を乗り越えていく所存ですが、国においても、県内事業者の安定的な事業継続及び安全・安心な県民生活の確保に向け、下記の事項について検討いただくよう強く要望します。

記

1 石油由来製品の流通段階における目詰まりの徹底的な解消

(1) 石油由来の化学品・製造品等の流通段階における目詰まりの実態を踏まえ、需給動向の正確な把握と、供給不安の解消に向けた情報の適時・適切な開示。

(2) 流通の目詰まりや供給の偏りの原因となる石油由来の化学品・製造品等の買い占めや売り惜しみの実態を把握し、国民生活安定緊急措置法などの適用も含めた厳正な処置の実施及び合理的価格による調達の実現。

こうした取組に加え、事業者が抱える在庫の一部を国が買い取り、地域の核となる業界団体等を通じ、資材不足から生産活動が困難となっている中小・零細企業に対して、合理的な価格で売り渡す等の施策の創設。

2 エネルギーの安定供給体制の確保

原油等の代替調達先や代替ルートの確立などエネルギーの中長期的な安定供給に向けた早急な体制確保。